

横浜のどこか、冬の海に浮かぶ創造空間。

3日間、この船は映画館へと姿を変え、皆様を乗せて様々な映画の世界へと出航いたします。

この「海に浮かぶ映画館」を通して新しい価値観や発見をお届けすることができますように。



作品紹介



映画に火をつけて 2013 / 15min /モノクロ

映画の中にいることを自覚している男女が、ある飲食店で飲み物を注文する。

しかし、店員は自分が映画の中にいることを知らなかった。

キャスト | 菊川恵里佳、藤岡康臣、鈴木勝之

スタッフ | 監督・脚本：神保慶政

▶神保慶政(じんぼよしまさ)：学生時から映画・音楽に興味を持ち、世界各地を放する。大学卒業後、秘境専門の旅行会社に就職。その後、映画監督を目指し退職。数本の短編を監督の後、2014年に初長編『僕はまだもうすぐ十一歳になる。』を監督。国内主要都市、香港・アメリカ・フィンランドで上映され好評を博し、日本映画監督協会新人賞にノミネートされる。新作短編『せんそうはしらない』を名古屋で今夏監督予定。年内にまず名古屋シネマスコアで公開される。



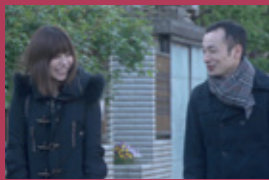
パン屋の息子 2014 / 22min /カラー

とある郊外にある一軒のパン屋「ペーカリーショップ・ロンドン」。先代から50年に渡って営業してきたこの店も今日で閉店する。いつもと変わらず、店主である父は黙々とパンを焼き、母は明るく接客をする。そんな折、息子の健太郎が突然帰って来た。

キャスト | 志賀廣太郎、金子岳憲、高尾祥子、飯島順子、帯金ゆかり、鷺尾真知子 ほか

スタッフ | 監督・脚本：日原進太郎 / 撮影・照明：今井哲郎 / 録音：横田満洋 / 助監督：鋤崎智哉 / 制作担当：光藤太郎、メイク：高田愛子

▶日原進太郎(ひはらしんたろう)：1980年大阪府箕面市生まれ。早稲田大学卒業後、東京ビジュアルアーツに入学し、映画を学ぶ。『春夏秋冬くるぐる』が、第33回びあフィルムフェスティバルPFF Award 2011にて準グランプリを受賞。当作品『パン屋の息子』が、水戸短編映像祭に入選。



バイバイ、おっばい 2015 / 86min /カラー

邦夫は、交際7年目の恋人・秋奈と同棲生活を送っている。いつからか恋愛感情を意識する事も無くなった生活の中で迎えた秋奈の33回目の誕生日に、邦夫は秋奈から結婚を持ち出される。うなずく邦夫だったが、同僚の苦労話を聞くなどして思い悩む。そして5ヶ月後、邦夫の胸はストレスによってCカップ程に膨らんでしまっていた。

キャスト | 亀井史興、中村夏子、磯村夫、小崎愛美理 ほか

スタッフ | 監督・脚本：鋤崎智哉 / 撮影・照明：浪谷昇平 / 助監督・編集：寺島麻美 / 録音：佐島由昭、木村聡 ほか

▶鋤崎智哉(すきざきともや)：明治大学卒業後、専門学校東京ビジュアルアーツに入学。在学中に参加した産学協同プロジェクト「トリウッドスタジオプロジェクト」にて脚本・監督を務めた『バカがウラヤマシイ』(出演：安藤聖・古館寛治 他)を劇場公開し、商業デビューを果たす。卒業後は助監督として篠原哲雄作品などに携わり、現在は母校である東京ビジュアルアーツ映画学科の職員として働く傍ら、作品制作を続けている。



カゲンミ 2015 / 101min /カラー

現実と理想が噛み合わず、生き甲斐も無しに漂うユタカ。空想が現実に浸食し、世界の壁が壊れてゆくギョウ。記憶を無くし、現在を失い彷徨うシノ。ユタカが引き逃げに遭ったシノを目撃する事によって、彼らの日常は少しずつ変容していく。

キャスト | ヒロト、小島里砂、柏屋拓哉 ほか

スタッフ | 監督・脚本・編集：柏屋拓哉 / 撮影：柳田修平、古澤淳、河城真宏 / 録音：大山辰時、沖ひかる、田中浩美、音楽：Takayuki Miyatake / 製作：武井賢人

▶柏屋拓哉(かしわやたくや)：東京造形大学造形学部デザイン学科映画専攻卒業。東京造形大学大学院、造形研究科造形専攻修了。諏訪敦彦に師事。『生活と制作』をテーマに映画のあり方を思考しながら制作をしている。



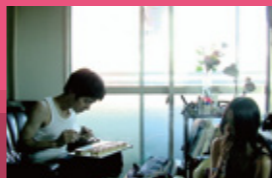
君とママとカウボーイ 2010 / 105min /モノクロ

横浜。雨木ジョージは卸売市場で果物を出荷する仕事をしながら、祖母が遺した家に一人で暮らしている。周りの女たちとの緩んだ関係、日々の肉体労働、目覚まし時計。彼の生活はいつまでも変わらずに続いていくかのように見えるが…。

キャスト | 稲葉雄介、細井学 ほか

スタッフ | 監督・脚本・編集：稲葉雄介 / 撮影：日下部隆太 / 録音：豊田知香 / 応援：大野隆介

▶稲葉雄介(いなばゆうすけ)：1986年生まれ。神奈川県出身。初監督作『君とママとカウボーイ』(2010)はシネマデジタルソウル国際映画祭など、国内外の映画祭で上映され、アビチャップン・ウィーラセタクン監督などから高い評価を受けている。『ちいさな、あかり』(2013、大野隆介監督)では撮影・助監督を担当。『息を殺して』(2014、五十嵐耕平監督)出演。監督最新作は日タイ共同製作映画『アリエル王子と監視人』(2015)



夜来風雨の声 2008 / 74min /カラー

天野と稲葉、若い二人は一緒に暮らしている。稲葉が仕事を失っていたために二人の生活は厳しかった。それでも彼は仕事をせずに、夜になれば外を歩き回っている。友人に会ってちょっと奢ってもらったり、煙草売りに詩を教わったり。でも天野は何も言わない。稲葉のことをただ見守っているのだった。そんなあるとき稲葉は友人に「病院で良い仕事がある」と聞かされる。

キャスト | 稲葉雄介、天野祐子、奈良大祐、日下部隆太、片寄弥生、五十嵐耕平

スタッフ | 監督・撮影・編集：五十嵐耕平 / 録音：日下部隆太、豊田知香 / 音楽：Sleepy Lemon

▶五十嵐耕平(いがらしこうへい)：1983年静岡県生まれ。東京造形大学卒業、東京藝術大学大学院映像研究科映画専攻監督領域修了。大学在学中に制作した『夜来風雨の声』は、シネマデジタルソウル2008にて韓国批評家賞受賞。『息を殺して』は第67回ロカール国際映画祭新鋭監督コンペティション部門に正式出品される。



砂の女 1964 / 147min /モノクロ / 16mm

※映写の関係上、途中でフィルムチェンジの時間がございます。ご了承ください。

昆虫採集にやって来た男は、砂の穴の中にある未亡人の家に泊めてもらった。だが、そこから抜け出せなくなってしまう…。抽象的な原作を映画化した作品で、カンヌ映画祭審査員特別賞等を受賞している。

©アカデミー賞 外国語映画賞部門(および監督賞部門)ノミネート、カンヌ国際映画祭 審査員特別賞、ブルーリボン賞 作品賞、監督賞

キャスト | 岡田英次、岸田今日子、三井弘次、伊藤弘子、矢野宣、関口銀三、市原清彦

スタッフ | 監督：勅使河原宏 / 製作：市川喜一、大野忠 / 原作・脚本：安部公房 / 撮影：瀬川浩 / 美術：平川透徹、山崎正夫 / 音楽：武満徹



ホットtentottエプロン-スケッチ 2006 / 70min /カラー

隠れた場所に醜いアザを持つ少女(阿久根裕子)は、ある日、ネズミ色のフードで顔まで覆った笛吹き男を見かける。笛の音色に引き寄せられるように、彼女は森の中の一軒家に迷い込む。そこには、自分と同じアザを持つ人形がいた…。

キャスト | 阿久根裕子、井川耕一郎、ただてっぺい、大川高広

スタッフ | 監督・撮影：七里圭 / 原案：新柵未成 / 撮影：高橋哲也 / 音楽：侘美秀俊 / 人形：清水真理

▶七里圭(しちりけい)：早大在学中から約10年の助監督を経て2004年『のんきな姉さん』で監督デビュー。主要作に『ホットtentottエプロン-スケッチ』(06)『眠り姫』(07)『映画としての音楽』(14)、短編『DUBHOUSE』(12)が、2013年の25FPS国際映画祭でグランプリ。近年はアコースモニウムを用いた上映パフォーマンスや『音から作る映画』プロジェクトなどにも取り組んでいる。

